

## 「エホバに導きを求める人は、良いものに不足しない」

2022 年の年句: 「エホバに導きを求める人は、良いものに不足しない」。[詩編 34:10](#)

### 4番の歌 「エホバは私の牧者」

何を学ぶか\* **2022 年の年句**は、「エホバに導きを求める人は、良いものに不足しない」というものです。これは、[詩編 34 編 10 節](#)から取られています。エホバに忠実に仕える人たちの多くは、お金や物をたくさん持っているわけではありません。それでも、「良いものに不足しない」と言えるのはなぜでしょうか。この節の意味を理解することは、間もなくやって来る難しい時期に備える上で、どのように役立つでしょうか。



ダビデは大変な状況の中でも、「良いものに不足しない」と感じていた。(1-3 節を参照。)

\*写真や挿絵: サウル王から逃げて洞窟に隠れていた時も、ダビデはエホバから与えられるものに感謝していた。

1. ダビデはどんな大変な状況を経験しましたか。

ダビデは身の危険を感じて逃げていました。イスラエルの強力な王であるサウルから命を狙われていたのです。ダビデは食べる物が必要になった時、ノブという町へ行き、祭司アヒメレクにパンを5つだけ求めました。（[サムー 21:1](#) ダビデはノブにいる祭司アヒメレクの所に行った。アヒメレクはダビデを恐れつつ迎え、言った。「どうしてお独りなのですか。お供はいらないのですか？」[3](#) 今もしパンが5つありましたら、頂けませんか。あるいは何でもある物で構いません」）その後、ダビデと部下たちは洞窟に逃れました。

した。 (サム一 22:1 ダビデはそこから出でていって、アドラムの洞窟に逃れた。彼の兄弟たちと父の家族全体がそのことを聞き、彼の所にやって来た) どうしてこのような状況になったのでしょうか。

2. サウルはどんな危険なことを行っていましたか。 (サムエル第一 23:16, 17)

2 サウルはダビデのことを非常にねたんでいました。ダビデが人々からの人気を集め、戦いでも多くの勝利を収めていたからです。サウルは、不従順になったために自分がエホバから退けられ、イスラエルの王権がダビデに与えられることを知っていました。 (サムエル第一 23:16, 17 サウルの子ヨナタンはホレシャのダビデの所に出掛けていき、エホバへの信頼を強めるよう助けた(d\*エホバに関して彼の手を強くした)。17 ヨナタンは言った。「恐れることはあります。私の父サウルがあなたを見つけることはありません。あなたはイスラエルの王になり、私はあなたの次の地位に就きます。父サウルもそうなることを知っているのです」を読む。) それでも、王であるサウルには、大きな軍隊や大勢の支持者たちがいました。それで、ダビデは命を守るために逃げなければなりませんでした。サウルは、エホバがダビデに王権を与えるのを阻止できる、と本気で思っていたのでしょうか。 (イザ 55:11 私の口から出る言葉も、成果を收めずに私のもとに戻ることはない。必ず私の望むこと(\*喜ぶこと)を成し遂げ、私が託した使命を確実に果たす) そのことについて聖書には何も書かれていませんが、次のことは確かです。サウルは神に逆らうことによって、非常に危険なことを行っていた、ということです。神と戦って勝てる人など、一人もいないのです。

3. ダビデは大変な状況の中でも、どう感じていましたか。

3 ダビデは、野心に燃える人ではありませんでした。王になりたいと自分から言ったのではなく、エホバからその立場に任命されたのです。 (サム一 16:1 エホバはやがてサムエルに言った。「あなたはいつもサウルのことで嘆き悲しむのか。私は彼をイスラエルの王位から退けたのである。角(\*)に油を満たし、行きなさい。あなたをベツレヘムの人エッサイの所に遣わす。私は、彼の息子の中から私のために王を選んだからだ」, 12, 13 それでエッサイはその子を連れてこさせた。その子は血色が良く、美しい目をしていて、姿がりりしかった。エホバは言った。「この人だ。立ち上がって、油を注ぎなさい！」 13 サムエルは油が入った角を取り、兄たちの前で彼に油を注いだ。その日からダビデはエホバの聖なる力を受けるようになった。その後サムエルは立ってラマに向かった) サウルはダビデのことを憎み、生かしておけない敵と見なすようになりました。でもダビデは、自分が危険な目に遭っていることで、エホバを悪く言ったりはしませんでした。食べ物が少ないことや洞窟に隠れなければならないことについて、文句を言うこともありませんでした。それどころか、この洞窟に隠れている時に、美しい詩編 34 編 ダビデによる。アビメレクの前で気が狂つたふりをし、追い出されて去った時。 34 私はいつもエホバを賛美する。賛美の言葉は絶えず私の口にある。 2 私はエホバを誇りとする。温厚な人は聞いて、喜ぶ。 3 私と共にエホバをあがめよ。共に神の名をたたえよう。 4 私が尋ねると、エホバは答えてくださった。全ての恐れから助け出してくださった。 5 神に目を向ける人の顔は喜びに輝いた。彼らが恥をかくことはない。 6 立場が低いこの私が呼ぶと、エホバは聞いてくださった。全ての苦難から救ってくださった。 7 エホバの天使は神を畏れる人たちの周りにとどまり(\*陣取り)，彼らを助け出す。 8 エホバが善い神であることを味わい知れ。神のもとに避難する人は幸せだ。 9 エホバを畏れよ、神の聖なる人たち。神を畏れる人は何も不足しない。 10 力がある若いライオンも、飢えに苦しむことがある。しかしエホバに導きを求める人は、良いものに不足しない。 11 私の子たち、来て、聞きなさい。エホバへの畏れを教えよう。 12 生きることを喜んで

いる人は誰か。 良い日々を長く送りたい人は。 13 それならば、 悪を語ってはならない。 欺きを語ってはならない(\*舌を悪から、 唇を欺きを語ることから守れ)。 14 悪から離れて善を行え。 平和を願い、 追い求めよ。 15 エホバは正しい人に目を留め、 助けを求める彼らの叫びに耳を傾ける。 16 しかし、 エホバは悪を行う人に厳しい顔を向ける。 彼らについての記憶を全て地上から消し去るために。 17 正しい人が叫ぶと、 エホバは聞いてくださった。 全ての苦難から助け出してくださった。 18 エホバは心が傷ついた人のそばにいる。 打ちのめされた(\*落胆した)人を救ってくださる。 19 正しい人は多くの苦難(\*災難)に遭う。 しかし、 エホバがその全てから助け出してくださる。 20 神はその人の骨を全て守る。 1本も折られることはなかった。 21 災難によって悪人は死に至る。 正しい人を憎む者は有罪とされる。 22 エホバはご自分に仕える人の命を救う(d\*買い戻す)。 神のもとに避難する人は誰も有罪とされないを作ったと思われます。 そこには、 この記事の主題聖句である次の言葉が含まれています。「エホバに導きを求める人は、 良いものに不足しない」。(詩 34:10 力がある若いライオンも、 飢えに苦しむことがある。 しかしえホバに導きを求める人は、 良いものに不足しない)

4. これから(ア)どんな点を考えますか。(イ)こうした点を考えるのが大切なのはなぜですか。

4(イ)現代のエホバの証人も、 食べる物や生活必需品などが足りなくて困るということがあります。  
\*エホバは、 ご自分の僕たちと共におられることを約束しています。 イザヤ 54章 17節はこう述べています。「あなたを攻めるために形造られる武器はどれも功を奏さ（ない）であろう」。この約束や他の同様の約束は、 神の民全體としての安全を保証するものです。 とはいって、 個々のクリスチヤンは、 試練に遭って命を落とすこともあります  
最近のパンデミックの状況下では、 こうした経験をしている兄弟姉妹が増えています。 また、「大患難」が近づくにつれて、 私たちは一層難しい時期を経験することになります。(マタ 24:21 その時、 世界の始めから今まで起きたことがなく、 いえ、 二度と起きないような大患難があるからです) こうしたことと思いに留めつつ、 (ア)次の4つの点を考えましょう。 ①ダビデはどういう意味で「良いものに不足しない」と言ったのでしょうか。 ②私たちが今あるもので満足すべきなのはなぜですか。 ③エホバが私たちを必ず助けてくださると信じられるのはなぜですか。 ④将来に備えて、 今どんなことができるでしょうか。

## 「私は何も不足しない」

5-6. 詩編 23 編 1-6 節からすると、 ダビデはどういう意味で、 神に仕える人は「良いものに不足しない」と言っていましたか。

5 ダビデはどんな意味で、 エホバに仕える人は「良いものに不足しない」と言ったのでしょうか。 詩編 23 編にある似た表現について考えると、 ヒントが得られます。(詩編 23:1-6 エホバは私の牧者。 私は何も不足しない。 2 導かれて青々とした牧草地に寝そべり、 水の豊かな場所(if\*静かな水辺)で憩いを得て、 3 力を取り戻す。 神がご自分の名のために、 正しい道に(\*正しいことを行うよう)導いてくださる。 4 深い陰が覆う谷を歩んでも、 何も悪いものを恐れない。 あなたが共にいてくださるから。 あなたの棒とつえによって安心できる(\*慰められる)。 5 私の敵の前で、 あなたは食卓を整えてくださる。 頭に油を塗って(\*私をもてなして)くださる。 私の杯は満たされる。 6 一生涯、 あなたの善い行いと搖るぎない愛は私を離れない。 生きている限り、 私はエホバの家に住むを読む。) 詩編 23 編の最初で、 ダビデはこう言っています。「エホバは私の牧者。 私は何も不足しない」。 そして続く部分でダビデは、 エホバを牧者と見ることによって経験してきた、 たくさん素晴らしい祝福について述べています。 これは私たちにとっても重要な点です。 例えば

、エホバはダビデを「正しい道に導いて」いました。そして、順調な時にもそうでない時にも、ダビデを支え続けました。ダビデは、エホバの「青々とした牧草地」にいるとしても、何かしらの問題を経験する、ということを理解していました。時には落胆し、「深い陰が覆う谷」を歩んでいるような気持ちになることもありましたし、敵からの反対に直面することもありました。それでも、ダビデはエホバを牧者と見ていたので、「何も悪いものを恐れ」ませんでした。

6ここから、ダビデがどういう意味で、「良いものに不足しない」と言っていたかが分かります。ダビデはエホバとの縛を保つのに必要なものを全て持っていました。ダビデの幸せは、お金や物に依存してはいませんでした。ダビデはエホバから与えられているもので満足していました。ダビデにとって一番大事だったのは、エホバからの祝福や保護だったのです。

7.ルカ 21 章 20-24 節によると、1世紀のユダヤに住んでいたクリスチャンはどんな難しい状況を経験しましたか。

7ダビデの言葉から、お金や物に対してふさわしい見方をすることの大切さを学べます。私たちは持っている物を活用することができますが、それを生活の中心にしてはいけません。1世紀のユダヤに住んでいたクリスチャンも、この点を理解することになりました。（ルカ 21:20-24 エルサレムが陣営を張った軍隊に囲まれるのを見たなら、その時、荒廃が近づいたことを知りなさい。21 その時、ユダヤにいる人は山に逃げ始めなさい。都の中にいる人はそこを出なさい。田舎にいる人は都に入ってはなりません。22なぜなら、これは処罰が下される期間であり、書かれていること全てが実現するのです。23 その期間、妊娠している女性と赤ん坊に乳を飲ませている人にとっては悲惨なことになります！その土地(d\*地上)はひどい貧困に見舞われ、この民に対する憤りが表されるからです。24 人々は剣の刃に倒れ、捕らわれて全ての国の人々のもとへ引いていかれます。そしてエルサレムは、異国の人々の定められた時が満ちるまで異国の人々に踏みにじられますを読む。）イエスは、エルサレムが「陣営を張った軍隊に囲まる」時が来ると警告していました。その時、クリスチャンは「山に逃げ始め」る必要がありました。逃げるなら命を守ることができましたが、これには大きな犠牲が伴いました。以前の「ものの塔」誌にはこう述べられています。「彼らは……畑と家を後にし、家から持ち物を取り出すことさえしませんでした。エホバが保護してください、支えてくださると確信し、大切に思える他のどんなものよりもエホバの崇拜を優先したのです」。

8.1世紀のユダヤに住んでいたクリスチャンに起きたことから、どんな大切な点を学べますか。

81世紀のユダヤに住んでいたクリスチャンに起きたことから、どんな大切な点を学べますか。先ほどの「ものの塔」誌にはこうあります。「前途には、わたしたちが物質上のものをどう見るかについて試みがあるかもしれません。物質上のものが最も重要なのでしょうか、それとも神の側にいるすべての人に施される救いのほうが重要でしょうか。そうです、逃げる際、わたしたちは何かの困難や欠乏を経験するかもしれません。ユダヤから……逃げた、1世紀の仲間たちの場合と同様、わたしたちも、何であれ求められる事柄を行なう心構えができるいなければならないでしょう」。\*\*\* 塔 99 5/1 19 ページ 22 節 「読者は識別力を働かせなさい」 \*\*\* イエスが警告して、衣類その他他の物を家に取りに帰ってはならない、と言われたのも意味深いことです。（マタイ 24:17, 18）ですから、前途には、わたしたちが物質上のものをどう見るかについて試みがあるかもしれません。物質上のものが最も重要なのでしょうか、それとも神の側にいるすべての人に施される救いのほうが重要でしょうか。そうです、逃げる際、わたした

ちは何かの困難や欠乏を経験するかもしれません。ユダヤからヨルダン川を越えてペレアに逃げた、1世紀の仲間たちの場合と同様、わたしたちも、何であれ求められる事柄を行なう心構えができていなければならないでしょう。

9. パウロがヘブライ人のクリスチャンに与えたアドバイスから、どんな励みを得られますか。

9 これらのクリスチャンにとって、持ち物をほぼ全て後にし、新しい場所での生活を始めるのは、どれほど大変だったことでしょう。生きていくのに必要なものに関してエホバに頼るには信仰が必要でした。それでも、助けが全くなかったわけではありません。エルサレムがローマ軍に囲まれる5年前、パウロはヘブライ人のクリスチャンに対して、次のような貴重なアドバイスを与えました。「お金を愛するような生き方をせず、今あるもので満足しましょう。神はこう言っています。『私は決してあなたを離れず、決してあなたを見捨てない』。それで、私たちは勇気を持ってこう言えます。『エホバは私を助けてくださる。私は恐れない。人が私に何を行えるだろう』」。（ヘブ 13:5, 6 お金愛するような生き方をせず、今あるもので満足しましょう。神はこう言っています。「私は決してあなたを離れず、決してあなたを見捨てない」。6 それで、私たちは勇気を持ってこう言えます。「エホバ(\*)は私を助けてくださる。私は恐れない。人が私に何を行えるだろう」）ローマ軍が攻めてくる前に、パウロのこのアドバイスを真剣に受け止めた人々は、逃げた先での簡素な生活に順応しやすかったことでしょう。生きていくのに必要な物をエホバが必ず与えてくださると確信できました。私たちもパウロのアドバイスを心に留めるなら、エホバが必ず世話をしてくれるという確信を持つことができます。

「それで満足します」

10. パウロの「秘訣」とは何ですか。

10 パウロは、同じようなアドバイスをテモテにも与えました。それは私たちにも当てはまるものです。パウロはこう述べました。「ですから、食物と衣服があれば、[私たちは]それで満足します」。（テモ一 6:8 ですから、食物(\*命を支える物)と衣服(\*住まい/d 覆い)があれば、それで満足します）これはつまり、おいしい料理を食べたり、立派な家に住んだり、時々新しい服を買ったりしてはいけない、ということでしょうか。そうではありません。パウロは今持っているもので満足すべきであると言っていたのです。（フィリ 4:12 貧しい生活も、豊かな生活も知っています。満たされているときも飢えているときも、物がたくさんあるときも少ししかないときも、常にあらゆる状況でやっていく秘訣を学びました）これがパウロの「秘訣」でした。私たちにとって、最も貴重なのは神との絆です。お金や物ではありません。（ハバ 3:17, 18 イチジクの木に花が付かず、ブドウの木に実がならなくても、オリーブが不作に終わり、畠(\*段丘)が食物を生み出さなくとも、囲いから羊が消え、小屋から牛がいなくなっても、18 私はエホバのことで歓喜します。私の救いの神のことで喜びにあふれます）



イスラエル人は荒野で過ごした40年間、『何にも不足しなかった』。私たちは、今持っているもので満足できるだろうか。（11節を参照。）＊写真や挿絵: エホバは、エジプトを脱出したイスラエル人に、食べ物としてマナを与え、服が擦り切れないようにした。

11. モーセがイスラエル人に対して語った言葉から、満足することについてどんなことを学べますか。

11 私たちがどんなものを必要としているかについての考え方は、エホバと私たちで違っているかも知れません。荒野で40年過ごした後、モーセはイスラエル人に対して次のように言いました。  
「エホバ神はあなたがした全てのことを祝福し、あなたがこの広大な荒野を歩いてきたことをよく知っている。この40年間、エホバ神はあなたと共におり、あなたは何にも不足しなかった」。（申 2:7 エホバ神はあなたがした全てのことを祝福し、あなたがこの広大な荒野を歩いてきたことをよく知っている。この40年間、エホバ神はあなたと共におり、あなたは何にも不足しなかった』）40年の間、エホバはイスラエル人に食べ物としてマナを与えました。服も擦り切れなかつたので、イスラエル人はエジプトを出た時に着ていた服をずっと使うことができました。（申 8:3, 4 神はあなたを謙遜にならせ、空腹にならせて、あなたもあなたの父たちも知らなかつたマナを食べさせました。それは、人がパンだけで生きるのではなく、エホバの口から出る全ての言葉によって生きる、ということをあなたに知らせるためでした。4 この40年、あなたが着ていた服は擦り切れず、足も腫れませんでした）中には、エホバから与えられている物は十分ではない、と考えた人もいたかもしれません。それでも、モーセはイスラエル人に対して、必要な物は全て与えられていることを思い起こさせました。私たちも満足し、エホバが与えてくださる基本的な物をエホバからの祝福と見て感謝するなら、エホバは喜んでくださいます。

## エホバが必ず助けてくださると信じる

12. ダビデが自分ではなくエホバに頼っていたことは、どんなことから分かりますか。

12 ダビデは、エホバが忠実な方で、ご自分を愛する人たちを深く気遣ってくださる、ということを理解していました。詩編34編を作った時、ダビデは命が危険な状態でした。それでも、信仰の目で「エホバの天使」が自分の「周りにとどま」っているのを見ました。（詩 34:7 エホバの天使は神を畏れる人たちの周りにとどまり(\*陣取り)、彼らを助け出す）ダビデは、エホバの天使を、陣営で敵を

見張っている兵士に例えていたのかもしれません。ダビデは強力な戦士で、エホバから王権を与えると約束されました。それでも、石投げ器や剣を使う自分の能力に頼ることはしませんでした。 (サムー 16:13) サムエルは油が入った角を取り、兄たちの前で彼に油を注いだ。その日からダビデはエホバの聖なる力を受けるようになった。その後サムエルは立ってラマに向かった; 24:12 エホバが私とあなたを裁いてくださいますように。あなたへの復讐はエホバがしてくださいますように。私の手があなたに向かうことはありません) 神に頼り、エホバの天使が「神を畏れる人たち……を助け出す」ことを信じていました。もちろん、私たちは奇跡によって守られることを期待していません。それでも、神に頼るなら、どんなつらいことを経験するとしてもいつか必ず救い出される、ということを理解しています。



大患難の際、マゴグのゴグの軍は私たちの家を襲撃してくるかもしれない。でも、イエスと天使たちがそのことを見逃すことなく私たちを守ってくれるので、私たちは恐れる必要がない。(13節を参照。)

13. マゴグのゴグの攻撃に対して私たちが無防備に見えるのはなぜですか。それでも恐れる必要がないのはなぜですか。 (表紙の絵を参照。)

13 近い将来、私たちは、エホバが守ってくださるということをどれほど信じているかを試されることになります。マゴグのゴグ、つまり諸国家の連合体がエホバに仕える人たちを攻める時、私たちは命の危険を感じるかもしれません。その時、私たちは、エホバが私たちを救い出すことができ、そうしたいと思っているということを確信している必要があります。諸国家は、私たちのことを無防備な羊のように考え、勝つのは簡単だと思うことでしょう。 (エゼ 38:10-12 主権者である主エホバはこう言う。『その日、あなたの心にさまざまな考えが入り、あなたは邪悪な計画を立てる。 11 そしてこう言う。「私は、無防備な居住地(\*囲いのない田舎の村)ばかりの土地に攻め込む。騒ぎもなく安らかに暮らしている人々を攻める。彼らは皆、城壁やかんぬきや門に守られていない居住地に住んでいる』。 12 あなたは多くの戦利品や略奪品を手に入れようとし、かつて廃虚だった人の人が住むようになった場所と、国々から再び集められた人々を攻撃する。その人々は財産を蓄えており、世界の中心に住んでいる) 私たちは武器を持っておらず、戦いの訓練を受けているわけでもないからです。でも、私たちは信仰の目で、天使の大軍が周りに

とどまり、助けようとしてくれていることを見ています。諸国家はこの様子を見ることができません。信仰がないからです。それで、天の軍勢が私たちを助けに来る時、諸国家は非常に驚くことになるでしょう。（啓 19:11 私が見ていると、天が開かれ、白い馬が現れた。それに乗っている者は、忠実で真実な方と呼ばれ、正しく裁き、正義のために戦う、14, 15 天の軍勢が、白くて清い上等の亜麻布の衣服を着て、白い馬に乗り、この方の後に従っていた。15 この方の口からは長くて鋭い剣が突き出ており、それによって国々を討つ。また、この方は鉄のつえをもって人々を処罰し(\*治め)、全能の神の激しい怒りの搾り場でブドウを踏む）

## 将来に備える

14. 将来に備えて、今どんなことができますか。

14 将来に備えて、今どんなことができるでしょうか。①お金や物に対してふさわしい見方を持つことが必要です。そうしたものは、いずれ手放さなければならなくなるからです。②また、今あるもので満足し、エホバとの絆を持っていることを喜ぶことも大切です。③エホバについて知れば知るほど、マゴグのゴグの攻撃からエホバが守ってくださるという確信を強めることができるでしょう。

15. ダビデはどんな経験をしていたので、エホバが必ず助けてくださると確信できましたか。

15 ダビデが試練に備える上で、ほかにもどんなことが助けになったか考えてみましょう。その点は、私たちにも役立つものです。ダビデはこう言いました。「エホバが善い神であることを味わい知れ。神のもとに避難する人は幸せだ」。（詩 34:8 エホバが善い神であることを味わい知れ。神のもとに避難する人は幸せだ）この言葉から、エホバが必ず助けてくださるとダビデが確信していたのはなぜかが分かります。ダビデはエホバにいつも頼っていました。そして、エホバはそのたびにダビデを助けました。例えば、ダビデは若い頃、フィリスティア人の恐ろしい巨人ゴリアテと対決した時、「今日、エホバはあなたを私の手に渡[す]」と言いました。（サム一 17:46 今日、エホバはあなたを私の手に渡し、私はあなたを討ち、あなたの首をはねる。私は今日、フィリスティア人の陣営の死体を鳥や野獣の餌にする。地上の人々は皆、イスラエルに神がいるのを知ることになる）後にサウル王に仕えていた時には、サウルから何度も命を狙われました。それでも、「エホバはダビデと共にい」て助けました。（サム一 18:12 エホバはダビデと共にいたが、サウルからは離れていたので、サウルはダビデを恐れた）ダビデは、それまでエホバが何度も助けてくださったことを経験していたので、今ぶつかっている問題についてもエホバが必ず助けてくださると確信していたのです。

16. エホバが善い神であることを「味わい知」るために、どんなことができますか。

16 今、導きを求めてエホバに頼れば頼るほど、将来エホバが必ず助けてくださるという確信を強めることができます。雇い主に大会のための休暇を願い出たり、集会に欠かさず出席し、奉仕しもっと出るために、仕事の時間を調整してほしいと頼んだりするには、信仰や決意が必要です。もしかすると、雇い主に願いを受け入れてもらえず、首になってしまふかもしれません。そうなるとしても、エホバが私たちを見捨てることなく、生きていくのに必要な物を与えてくださる、

ということに信仰を置くでしょうか。 (ヘブ 13:5 金を愛するような生き方をせず、今あるもので満足しましょう。神はこう言っています。「私は決してあなたを離れず、決してあなたを見捨てない」) 大勢の全時間奉仕者が、一番必要な時にエホバが助けてくれたということを経験しています。エホバは忠実な方なのです。

17. 2022年の年句は(ア)何ですか。それが(イ)ふさわしいのはなぜですか。

17(イ)エホバが共にいてくださるのですから、将来を恐れる必要はありません。私たちが王国を第一にするなら、エホバは必ず助けを与えてくださいます。私たちは、将来の難しい時期に備えて今できることを行い、エホバに見捨てられることは決してないという確信を持つ必要があります。私たちがこのことを思い起こせるよう、統治体は2022年の年句として、詩編 34 編 10 節力がある若いライオンも、飢えに苦しむことがある。しかしえホバに導きを求める人は、良いものに不足しないの次の言葉を選びました。(ア)「エホバに導きを求める人は、良いものに不足しない」。

どのように答えますか

### 1. どういう意味で、私たちは「良いものに不足しない」と言えますか。

- ・S05-06 時には落胆し、「深い陰が覆う谷」を歩んでいるような気持ちになることも、敵からの反対に直面することもありましたが、ダビデはエホバを牧者と見ていたので、「何も悪いものを恐れ」なかった。
- ・ダビデはエホバとの絆を保つのに必要なものを全て持っていました。
- ・ダビデの幸せは、お金や物に依存してはいませんでした。
- ・ダビデはエホバから与えられているもので満足していました。
- ・ダビデにとって一番大事だったのは、エホバからの祝福や保護だったのです。

### 2. パウロの「秘訣」とは何ですか。

- ・S10 おいしい料理を食べたり、立派な家に住んだり、時々新しい服を買ったりしてはいけない、ということではないが、今持っているもので満足すべきであるという秘訣
- ・私たちにとって、最も貴重なのは神との絆です。お金や物ではない

### 3. 将来に備えて、今どんなことができますか。

- ・S14 ①お金や物に対してふさわしい見方を持つことが必要。  
そうしたものは、いずれ手放さなければならなくなる。
- ②また、今あるもので満足し、エホバとの絆を持っていることを喜ぶことも大切
- ③エホバについて知れば知るほど、マゴグのゴグの攻撃からエホバが守ってくださるという確信を強めることができる
- ・S15 エホバにいつも頼る
- ・S16 経済的な困難に直面しても、エホバが私たちを見捨てることなく、生きていくのに必要な物をえてくださる、ということに信仰を置く